

5. 癬痕性脱毛症 scarring alopecia

外傷、熱傷、放射線などによる癬痕形成の結果、毛包が不可逆的に破壊されて脱毛をきたしたものである（図 19.16）。DLE、剣創状強皮症などの疾患でも生じうる。治療には外科的再建を要する。

D. 爪甲の変化 disorders of nails

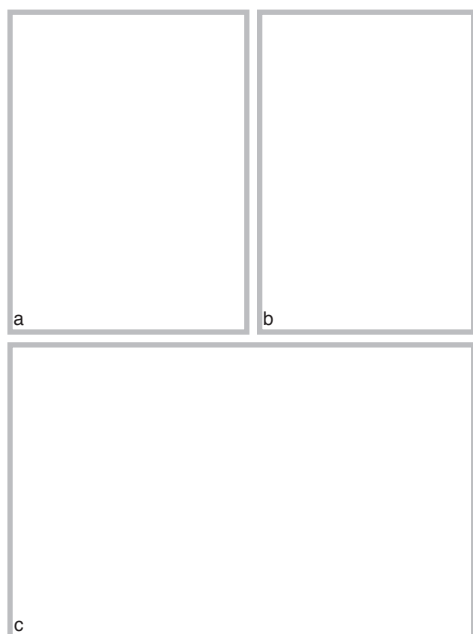


図 19.17 メラニン色（黒色）の爪 (melanonychia)
a: 爪の色に濃淡の差があり、爪の先端部が変形する。悪性黒色腫が疑われる。b: 25 歳女性。半年前より急速に発現し、病理組織学的には malignant melanoma *in situ* の像を呈した。c: 爪母の母斑細胞母斑。

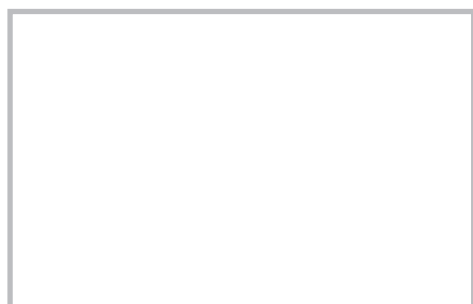


図 19.18 黄色の爪 (yellow nail)

a. 爪甲の色調の変化 color changes of nail plates

1. メラニン色（黒色）の爪 melanonychia

爪母メラノサイトの増加によるもの（母斑細胞母斑、炎症、圧迫によるメラノサイト活性化など）、悪性黒色腫、Addison 病、薬剤性（フルオロウラシル、プレオマイシン、ヒドロキシウレアなど）などの原因が考えられる。爪外の皮膚（爪郭部など）まで黒色病変が及んでいる場合を Hutchinson 徴候^{ハッチンソン}といい、悪性黒色腫の可能性が高い（図 19.17）。爪下出血でも黒色調になるが、多くはダーモスコピーで鑑別可能である。また、細く縦走する数 mm 大の線状出血（splinter hemorrhage）は健康人でもみられるが、遺伝性出血性毛細血管拡張症（Osler 病^{オスラー}）や感染性心内膜炎で生じることがあり注意を要する。

2. 黄色の爪 yellow nail

爪の栄養障害や感染症、柑皮症や黄疸^{かんび}などによる。リンパ浮腫および慢性呼吸器疾患を合併したものを黄色爪症候群（yellow nail syndrome）といい、D-ペニシラミン、テトラサイクリンで誘発されることがある（図 19.18）。

3. 緑色の爪 green nail syndrome, chloronychia

緑膿菌の日和見感染^{つめはくせん}であり、爪白癬や爪カンジダ症を合併しやすい（図 19.19）。

4. 白色の爪 leukonychia

点状の白斑は、外傷などによって部分的に不全角化が起こるために生じるもので無害である（図 19.20）。ネフローゼ、肝